

平素のご愛顧に有難く厚く御礼申し上げます。

「ああ…なんて幸せ！ 贅沢過ぎるう～。超最高!!!」
お風呂上がり、エアコンで冷やした部屋で、更に扇風機の強風を真正面に受けて、真夏の贅沢・至福のひと時を過ごします。

昭和25年以降(1950年後半～)、白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫の家電3品目が『三種の神器』と喧伝され普及が加速しました。続く、昭和40年(1965)頃、高度成長期と言われる時代には「3C」と呼ばれる、カラーテレビ (Color TV)、自動車 (Car)、そしてクーラー (Cooler) の3種の耐久消費財が『新・三種の神器』と言われ、人々の生活様式が大きく変化しました。

しかし我が家は、何もかもが我慢強く、一般家庭から遅れること約10年、私が高校生の頃に、やっと最終神器のエアコンがやって来ました。だから私にとっては、何歳になってもエアコンは贅沢品、その上、扇風機の風を独り占めできるのですから…。

2022年現在、二人以上の世帯におけるエアコンの普及率は92%以上、一世帯あたりの保有台数は平均3台以上となっているそうです。近頃は電気代が上がり、エコ活動の必要性から、少し罪悪感を感じているので、短縮バージョンで今年の夏を乗り切ります。皆様もくれぐれも**熱中症**にはご注意ください。



水面上に咲く

(注) 温帯スイレンの場合

睡蓮 と 蓮 の違い
(スイレン) (ハス)

葉に切込みアリ

花も葉も
水面より上に咲く



葉に切込みナシ

水加減でよし。朝七時に食べるときは、前日の夜七時に炊飯器をスイッチONして、炊きあがってもすぐに蓋を開けないこと。食べるまでに十二時間を要するのは、ここが「ミソ」か。
わが家は、夜の七時に食べたので、朝七時にスイッチを入



豆。ふつうの
カップ一杯の
米二合に対し
してきた。お
気よく飛び出
六粒ほど、元
がひとさや五
と、グリーンピ
ース大の緑豆
さやをむく

静岡の友人からいつ
も採りたて野菜と一
緒に、ポリ袋に入った赤茶色の
さや豆が送られてきた。それに
はメモが付いていて、「ツタンカ
ーメン赤飯の炊き方」とある。名
前にひかれて、結婚記念日に作
ってみることにした。

ツタンカーメン赤飯
板東 千寿子

れた。長い保温時間を待つて、お
そるおそる蓋を開けてみる。や
あやあ、やさしい赤色が染み出
して、ホカホカの赤飯が出来上
がっていた。

上にのせたお豆を
一つつまむと、ほんの
りと甘く、上品な味。



この「ツタンカーメン赤飯」の
いわれは、古代エジプト王、ツタ
ンカーメンの墓から出土した豆
の子孫だとか。一九二三年、イギ
リスの考古学者、ハワード・カー
ター氏が、発掘された埋蔵品の
中から、エンドウ豆を持ち帰り、
長年かけて、発芽、栽培に成功し
た。こうして各地に広まったそ
うである。

この荘厳な名前を持った「ツ
タンカーメン赤
飯」の登場が、私た
ちの五十二回目の
結婚記念日の食卓
をひとしお華やか
にしたの言うま
でもない。



東京の「采村治美エッセイストグループ」
さまの協力を得て、掲載しております。



令和 4年
7月号

(No. 00031)



(いんぐ通信)

通信

(編集・発行・発行日) 2022年7月1日



株式会社 ONE STEP
イングレンタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神陵台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133

【ソロ活:ひとりキャンプ】



日頃のご愛顧に厚くお礼申し上げます。

皆さんは、積極的な行動や自らの努力に「活」を足して表現する「〇活」と言う働きかけをされていますか？

わが家では、82歳の母が野菜作りの「畑活」に頑張りながら、少しずつですが「終活」も始めています。独立したての長男の「婚活」はもうしばらく先になりそうです…。一方の次男は「就活」の真っ最中、どちらも良いご縁があるようにと願っています。

私(51)は、「人生100年時代」だから、定年後の長い期間の生き方に『老いてもなお活き活きと～老けない・ボケない・患わない～』をテーマに、「老(おい)活」を始めました。夫は、定年してもいきなり老人になるわけじゃないからと言って、自分のお小遣いが減らないように、第2の「就活」も考えなくっちゃと言ったり、「燃活」だと言って脂肪を燃焼させる運動の必要性を説いていますが口先ばかりです…。

夏本番を迎え、熱中症対策に**水分の補給活動**や、夏バテ対策に**栄養の補給活動**は忘れないように、ご注意の上くれぐれもご自愛下さい。

既に周知され定着した言葉もありますが、新しく色々な「〇活」が出てきています。

- 保活** : 保育所や保育園に子供を入れる活動
- 墓活** : 墓地や墓石などのことを考える活動
- ソロ活** : 一人の時間を有効に使って楽しむ活動
- ラン活** : ランドセル選びから購入までの活動
- 押し活** : 人や物事を応援し、情熱を注ぐ活動

- 温活** : 基礎体温を上げたり、冷え性の改善活動
- 菌活** : 発酵食品やキノコ類を摂取して免疫力UP
- 腸活** : 腸内環境を良くして美容やダイエット
- 眠活** : 質の良い睡眠で健康・美容の効果向上
- 涙活** : 泣ける映画などでストレス発散



押し活中



今月のエッセイ
2022年7月

KEG

私のワンダーランド

吉原 百合子

若い頃のおとぎの国は遊園地だったが、六十代後半になり、今のワンダーランドはスーパーマーケットだ。それも徒歩二分の地元の小さな店。「行ってきたーす」という声が明るい時はスーパー、暗い時は医者で、私の行き先を夫が見分けている。

まず店内の大きさがいい。足の悪い私はショッピングカートを持って行くが、引いて歩けるほどの通路スペースがある。配列棚は七列ほど。必需品が並ぶ奥側を、少しの時間で回れるのもありがたい。

それでいて、品揃えの幅は広く、安い物から高級品まで選べる。例えば肉ならカナダ産、国産、ブランド品とある。その代わり、それぞれ品数は多くないのだが。

次に魅力的なのは生鮮食料品が充実している点だ。まず野菜コーナーには、必ず季節の物がある。

春ならセリから始まって、泥付き筍、ウドなど。夏には空豆、京都の賀茂ナスや新生姜などが並び、季節を肌で感じる。外に出かける機会が減って、ネットで料理法を調べて作るようになった。

魚も安くて新鮮そのもの。「おススメ」印のものから選び、下処理をお願いし、料理法を覚えてもらう。ある日、親しい店員さんが、「お客さん、塩辛にいいイカが入っているよ」と教えてくれた。覚えていてくれて感激した。そう、姑直伝の手作りのイカの塩辛は、最後の晚餐に食べたほどの美味しさなのだ。

あと、たまに「ときめきポイント」という紙のカードが出る。ハンコを押してもらい、貯めると紙の金券が発行されるというアナログなもの。これも楽しみである。

「いつも洋服を買うときには、大金の失敗をしているのになあ」
夫に嫌味を言われるが、気にしないで楽しむことにしている。



東京の「木村治美エッセイストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。



令和 4年
6月号
(No. 00030)



(いんぐ通信)
通信

(編集・発行・発行日) 2022年 6月 1日



株式会社 ONE STEP
イングリタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神楽台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133



平素のご愛顧に厚く御礼申し上げます。

梅雨シーズン、雨の日は気分が憂鬱になりがちですよね。しかし、そんな時こそ自身がポジティブになってまわりを明るくしたいものです。そもそも「雨は天からの贈り物」と言われることを考えると、縁起が良いものと思っても頷けるのではないのでしょうか。鬱陶しい鬱陶しいと考えるよりも、「恵みだ!」「恵みだ!」と感じて過ごしてみる方が、きっとそっちの方に幸運が訪れるように思います。

具体的に雨が「縁起が良い」とされる理由には、

- 雨は悪いものを流して浄化してくれる
- 雨は物事を好転させる力がある
- 雨はゆとりの大切さを気づかせるメッセージ

また、雨の日の結婚式は縁起が良いとも言われます。

- ◇ 神様の嬉し涙
- ◇ 二人の地盤を固めてくれる
- ◇ 幸せが「吹き込む」前触れ



梅雨寒の日が続く時節柄、どうぞ風邪などお召しになりませぬよう、お気を付けください。



6月4日~10日
歯と口の
健康週間

高齢になって、歯の残っている本数が多ければ多いほど、寿命が長くなるというデータが報告されています。また、歯があることで踏ん張りがきくため転倒の予防につながったり、しっかり噛むことが脳への血流を増やし、認知症の予防につながります。すでに歯を失っている人でも、きちんと自分のお口に合った入れ歯でしっかりと噛むことで、健康に過ごせる確率が高くなり健康に大きく影響します。

昭和の男は

流行らない?

和田みち子

家の近所に保育園ができた。朝八時ともなると親が子どもを預けにくる。スーツ姿に前抱っこをして、保育用バッグとビジネスバッグの両方を持って歩いている



今月のエッセイ 2022年6月

KEG

父親の姿も当り前になった。今は夫婦協力して子育てをしなければ生活が回らない。最近ではコロナ禍のために在宅で仕事をしている人も多い。娘婿もその

「料理なんて全然しなかったし、お袋が忙しくしていても、お茶!なんて言ったりして」

彼は、昼食を考えるのが面倒だから、自分で一週間分のカレーを作り、平日は毎日それを食べている。それだけ自分はやっているという静かなアピールだろうか。娘も働いているからその点は助かるにしても、陰では愚痴の一つも聞かされる。

自分の昼食ぐらい作って当り前だと思うけど、それをストレートに言うときくしやくする。娘には、「助かるわあとか、少し大きげさ言えば相手も気分いいでしょ」と、アドバイスをし、円満を願う私。

今や「男子厨房に入らず」など、死語に近い。料理上手な男はモテるし、子どもに好かれ、妻としても大歓迎だろう。頭の固い昭和の男は流行らないのだ。

一人だ。先日娘の家に行ったとき、珍しく無口な婿が話し出した。「僕の親父は家の事はなんにもしないで、お袋がいつも忙しそうでしたよ」
「三人も男の子がいて大変だったでしょうに」

ついでに、孫には「男なんだから泣かない」とか、「女の子はやさしくね」などといふ口走ってしまう昭和の女の私も、流行らないかもしれない。



東京の「木村治美エッセイストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。



令和 4年
5月号

(No. 00029)



(いんぐ通信)

通信

(編集・発行・発行日) 2022年5月1日



株式会社 ONE STEP
イングリエンタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神陵台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133



暖かくなって、五月晴れの空をツバメが飛ぶ季節
日頃のご愛顧に有難く厚く御礼申し上げます。

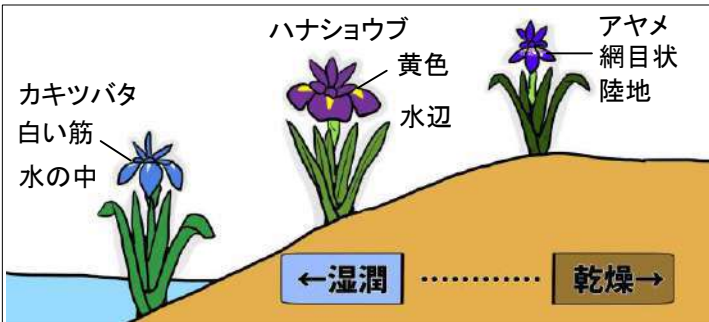


【ツバメとスズメの昔ばなしから】

むかし昔、ツバメとスズメは姉妹だったそうです。ツバメとスズメ…、そう言えば名前も何だか似ていますよね！ある日、離れて暮らす姉妹に親が危篤状態だという報せが届きました。妹のスズメはこれは大変だと、家の事等は放り出して、なりふりかまわず普段着のまま駆けつけたので、看病もしてあげることができました。ところが、姉のツバメはおしゃれが大事、実家に戻るのに着物を作ってから、紅をさし、お歯黒して、美しく着飾ってから出かけたので、親の最期に間に合いませんでした。この事を知った神さまは、親孝行なスズメには、手近な場所で人間と同じ五穀を自由に食べて暮らせるように計られました。けれどもツバメは、穀物は一切口にしてはならない。虫しか食べてはならず、実りの秋には日本にいることを許さないとお叱りになったそうです。



この昔話では叱られてしまったツバメですが、ツバメが巣をつくる家には火事が起こらないなど縁起がかつがれたり、人にとっては、穀物を荒らす害虫を食べてくれる益鳥です。また、街中の商店などの軒先に巣をつくっているのを、人が補強をしたり、フン除けを作って助けている様子を見かけます。ヒナの巣立ちを見守り、ツバメがスイスイと飛び回れる平和で幸せな春の光景がいつまでも続きますようお願いばかりです。



「じゃ、うちは三人だから、一億二千万円だ！ 親にしても



ズを買いに行くところなんだ」「そうなの。三人もいるから何かと大変ね。以前新聞で読んだけど、子ども一人を社会人にするまでに四千万円かかるってね」



二人のサッカーカーシュー
「この後、持って。」「この後、二人のサッカーカーシュー

た。コロナが流行ってからは、玄関先で話していたが、その日はせっかくだからと入ってもらい、窓を開けて久しぶりに団欒を



母の日に、近くに住む息子と二人の孫息子が、お祝いのお菓子を持って来てくれた。

つながっていく
下吉 和子

母の日のプレセントもうれしかったけれど、息子のおかげで心温まるいい母の日になった。

「はい」と返事をしていった。いいことを言うな、と思った。そうか、私も親からもらったものを子ども二人にお返ししてたんだね、それを子どもたちが、孫たちにお返ししてるのか。そう思うとなんだかとてもさわやかな気持ちになり、つながっていくことをうれしく感じた。

戻したことを、今お前たちにお返ししているわけだね。お前たちも子どもができたらお返しするんだよ」

息子がお返ししのしぐさの、両手のひらを孫たちに見せて言う。高二と中一の孫が、「はい」と返事をしていった。いいことを言うな、と思った。そうか、私も親からもらったものを子ども二人にお返ししてたんだね、それを子どもたちが、孫たちにお返ししてるのか。そう思うとなんだかとてもさわやかな気持ちになり、つながっていくことをうれしく感じた。



東京の「木村治美エッセイストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。



令和 4年
4月号

(No. 00028)



(いんぐ通信)

通信

(編集・発行・発行日) 2022年 4月 1日



株式会社 ONE STEP
イングレンタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神陵台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133



平素のご愛顧に厚く御礼申し上げます。



電車でいろんな駅まで出かけて行き、下車したその街をウォーキングするのが趣味です。桜のこの時季は最高の季節で、お金も掛からないし、運動にもなるし、色々な出会いがあります。出会いの中には『お寺』もあります。お寺の中には、入口のところに「掲示板」があって、ご住職が書いたと思われる標語を見かけることがあります。私はそれを読むのが好きです。そこに書かれているメッセージは、仏の教えや人生の導きなど含蓄のある句であったり、心に響く有名人の言葉だったり、実にさまざまです。時には、難しい言葉が書かれているのかと思いきや、すごく斬新なものや、「こつこつが コツ！」など思わず笑ってしまう標語もあります。



仏教界では掲示板を使用した布教を「掲示伝道」と呼び、明治時代から行われていたそうです。しかし、近年は掲示板を活用しているお寺が減少傾向になり、そんな「掲示伝道」を盛り上げたいと、仏教伝道協会は2018年に「輝け！お寺の掲示板大賞」を始めたそうです。写真に撮ってSNSで投稿参加でき、入賞者には賞品もあるそうなので、次回、チャンスがあれば挑戦してみようと思っています。花冷えのする日もありますが、風邪など召されませぬようくれぐれもご自愛下さい。

**NO 先祖,
NO LIFE**

龍岸寺(京都)

**部屋も心も
換気よく**

龍源寺(京都)

**輝け！
お寺の掲示板
大賞に
身を煩わし
心を悩まして
います**

本明寺(東京)

**もつとも
優しい
言葉は
その人の名を
呼ぶことである**

明淳寺(岐阜)

**小さな
大きな
実り
継続**

湯川寺(北海道)

今月のエッセイ
2022年 4月

昭和の歌

古野 えいこ

私が小学校四年生のころです。もう五十年以上前の話です。給食が終わると、教室に一台あるオルガンを囲み、女の子たちは、学校で習った歌を歌ったものでした。普段は、ピアノを習っている子が童謡や文部省唱歌を弾いていました。音楽の教科書に載っている『春の小川』

「茶つみ」「夕やけこやけ」など

です。みんな歌ったり聴き入ったりして。私はピアノを習ったことはないけれど、家にあつたオルガン

で毎日練習し、弾けるようになって

た曲が一曲だけありました。それは、中尾ミエの『可愛いベイビー』です。童謡などはまったく練習せず、レコードを聴いて音を探し、

前奏からひたすら練習していました。当時は、テレビでも歌番組が多く、歌謡曲全盛だったのです。



ある日、私が弾き始めると、クラス中の女の子たちがあつて、みんな大喜び。オルガンの回りに何重にも輪ができました。なにしろ、当時学校で歌謡曲を弾く子などいなかったのですから。

「弾いて！弾いて！」

みんなが何度も言うので、得意になって繰り返し弾いたもの。すると突然、教室に入ってきた隣のクラスの男の先生に叱られたのです。

「子供が歌謡曲なんか弾いてはいけません」

みんながっかりしてブツブツ言いながら席に着きました。私が教室で弾くことは二度とありませんでした。

今は、井上陽水や中島みゆき、ザ・ビートルズの曲が教科書に載り、運動会でもJポップで行進する時代。時の流れを感じます。



東京の「木村治美エッセイリストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。





令和 4年
3月号

(No. 00027)



(いんぐ通信)

通信

(編集・発行・発行日) 2022年3月1日



株式会社 ONE STEP
イングリタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神楽台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133



平素のご愛顧に厚く御礼申し上げます！



同居する80歳の母が「街かどデイサービス」に通っています。「街かどデイサービス」とは、介護保険を使わない健康な高齢者を対象に、介護予防活動、体操、給食、レクリエーション等の色々なサービスが提供されている所です。送迎もあって利用料も、食事代等を含めて1日800円程度と安価です。

母は週1回の参加ですが、良い友達もできたようで毎回楽しみにしています。時々、認知症を予防する「脳トレテスト」もあるのですが、少しのうっかりミスで100点がなかなかとれず、少し悔しい思いをしているようです。

それが原因か、近頃クロスワード等で頭を使っている様子を見かけます。昨夜は家に帰ると日本の県名を北海道から順に書き出していた。中学卒の母にしては配置も良く書けている。父と色々旅行した甲斐があったのかなと感心していると、「コレとコレは県じゃなかったかな？」と金沢と姫路を指さしました。「なるほど、そうだよ！この2つと、仙台・横浜・名古屋を合わせた5つの大都市は、県名と間違う人も多いのよ」とやんわり返答。落ち込むかと思いきや、母は疑問が解決した事と後の3つが合っていたことが少しほこらしく嬉しいようでした。

寒暖定まらぬ時季ですので、くれぐれもご自愛下さいませよう念じ申し上げます。



認知症 《予防》

- ①バランスよく食べる(偏らない)
- ②他者との交流(閉じこもらない)
- ③適度な運動(筋力維持・血行促進)
- ④知的活動・趣味を持ち楽しむ
- ⑤おしゃれする・笑顔を中心掛ける

息子は、家の近くの「稲」というトンカツ屋で二人前お弁当にしてもらって買って来たという。昔、家

族に迎えを頼んでおいた。最初の右目の手術そのものは心配するほどもなく、心も落ち着いて無事終わる。夕方、息子が車で迎えに来てくれた。

今月のエッセイ

2022年3月

右目、左目 それぞれの手術の後は、顔三分の一ほどガーゼと包帯と絆創膏でしっかりと覆われるらしい。帰りにはそのまま外を歩くことはできないと

白内障手術とお弁当
石井 芙美
年明けに、八十年代半ばで白内障の手術をした。折しもコロナ禍が蔓延中。大きな病院を避けて、個人の眼科医にお願いすることにした。その医院はバスと電車を乗り継ぎ、通院がなかなか大変だった。大雨の日はタクシーを利用したこともある。



「吉野家の牛丼でいいかな」と、娘。「もちろん。初体験だわ」。私は車の中でしばし待つ。男の子は二人前で卵も二つだそう。昔は、子どもが病気をすれば、私がおぶったり、手を引いたりして病院に行った。朝は早く起きて、三人の子の弁当を作ったものだ。今は逆転だ。すっかり世話になっている。でもちよっと甘えの気分。たまにはいいかも。



族五人で、よく行った懐かしい店を彼は覚えていたのだ。その日も息子の折りに一切れ載せる。当時は二人の男の子に一切れずつ。昔のままの習慣だ。夕食後、息子は、「一人で大丈夫？」などと心配しながらも、自分の家に帰って行った。三日後、左目の手術。こんども無事終わった。左顔面ガーゼでぐるぐる巻きだ。その日の帰りは娘が早く仕事を終えて、迎えに来てくれる。家にはリモート中の男の子と女の子が二人お腹を空かせて待っているという。



東京の「木村治美エッセイストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。

KEG



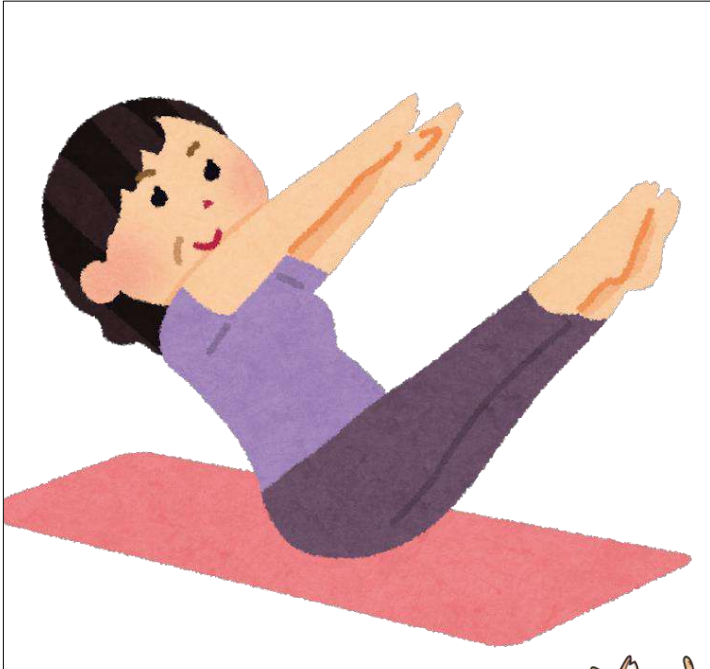
令和 4年
2月号
(No. 00026)

(いんぐ通信)
ing 通信
KOBÉ

(編集・発行・発行日) 2022年2月1日



株式会社 ONE STEP
イングリタルサービス
〒655-0041 神戸市垂水区神陵台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133



平素のご愛顧に有難く厚く御礼申し上げます。🌸🍰🌸🍰🌸🍰

近頃、自分の年齢の事を考えることが多くなりました。人生100年時代と言われる昨今、中間を少し過ぎたところなので、まだ「中年(おばさん)」でもいいのかな…?あるいは、まさかのお婆さんの域なのかしら?そこで、大手企業の「人の年齢に対するイメージを明らかにする意識調査」を見てみました。

おばさん・おじさん = 平均**49**歳
シニア = 平均**61.6**歳
お婆さん・お爺さん = 平均**69**歳
お年寄り = 平均**73.1**歳



サントリーウエルネス(株)
「日本全国 実感年齢白書」
2022より

(※資料は平均値で、世代によって年齢に対するイメージは異なり、おばさん・おじさんは20代だと47歳が平均ですが、70代だと55.2歳が平均となるそうです。)

いかがでしょうか?私はまだ「お婆さん」の域と言える事にちょっと安心しました。しかし、人生はまだまだこれからで、歳を重ねるごとに好奇心、積極的な外出、人との交流、やりたいことを楽しむ等と、体力・運動機能の維持向上も重要になると言ってます。「ココロ」のあり方と「カラダ」のあり方が、共に充実していることがアンチエイジングには必要で、若さを保つ秘訣だそうです。寒さとコロナ禍が厳しさを増し、大変な時節ですが、負けないで春には活動できる準備をしておきましょう!



2月22日は「猫の日」



猫の鳴き声の「にゃん」「にゃん」「にゃん」と日本語の「2」「2」「2」の語呂合わせにちなんだもので、全国の愛猫家からの公募によって1987年に制定されました。

家から徒歩一、二分の「男女共同参画推進センター」という所。早速、訪ねてみる。
傘寿目前の私は、年齢制限がないことを確認して応募すると、数日後、採用通知が届いた。
私は、「そもそもジェンダーとは何ぞや」というレベルの人間だというのに、情報誌の次号の特集記事は、「お茶の間から学ぶジェンダー平等」。担当したページの

今月のエッセイ
2022年2月

コロナ禍のおかげで
吉田 陽子
初めての緊急事態宣言が出た昨年四月も末のことである。
日ごろ体力作りに通うジムも、趣味講座も休みにになり、不要不急の外出は控えるように言われて、「時間が出来るなあ」と感じていた。
そんなとき、区の広報の小さな記事が目にとまった。区情報誌編集委員の募集である。一年間のボランティアで、編集会議のたぬ月に数回通う先は、わが



「今だから読みたい本」というコラムで紹介するために読んだのは、『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください』。
ここで「毒親」という言葉に初めて出会う。子供を支配したり傷つけたりして「毒」になる親、子供の人生を支配しようとする親、虐待もその一つ、だと。そこで気付いた。私も夫も「毒親」と思われていたかもしれない。
スパルタ式ともいえる夫はともかく、わが子育てを顧みるに、あすればよかった、こうすればよかった、との思いは数知れない。ことに最初の子のときは、ただもう一生懸命で、つい手を上げてしまった。長男など、「お母さんは鬼婆だ」と叫んだこともある。
一男二女が次々と、卒業・就職と同時に家を出て自立したのを、頼もしく思っていたけれど、それだけ親から早く離れたかったのかもしれない。これまで読まなかったようなジャンルの本を読む機会を得たからこそ、気付くことができたのだと思った。

東京の「木村治美エッセイストグループ」さまの協力を得て、掲載しております。





令和 4年
正月号

(No. 00025)



(いんぐ通信)

通信

(編集・発行・発行日) 2022年1月1日



株式会社 ONE STEP
イングレンタルサービス

〒655-0041 神戸市垂水区神陵台3-2-1-12
TEL:078-777-6524 FAX:078-778-8133

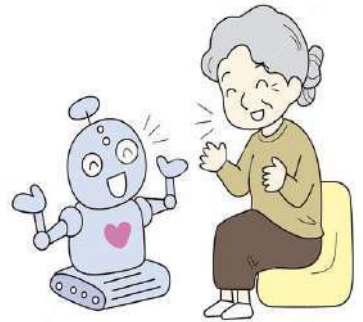
謹賀
新年



平素のご愛顧に厚くお礼申し上げますと共に、本年も相変わ
りませぬご贖賜賜れますようお願い申し上げます。

私の母は信心深く、良い天気の日には朝日に手を合わせ、神
棚・仏壇の手入れも欠かさない。冬至には、南瓜を食べて柚
子湯に入るなど吉祥を願う風習も毎年行います。また、家が
商売をしていたので正月のおせちの膳には、仕事がさばける
ようにと、鯛ではなく「鯖(サバ)」が飾られていました。おまけ
に、災難除けに梅干しの種が入ったお守りを作ってくれます。
一応、宗派はあるものの細かい事はお構いなしです。母の身
の回りでは色々なものが神となり、沢山の神がいるようです。
つまり八百万(やおよろず)が神である。しかし、この事は母に限
ったことでもない。日本人にとっての「神」とは手の届かない存
在でありながら、またトイレにもいるように身近な存在でもあ
る。こういう事が「神の国」とも言われる所以なのでしょうか…。

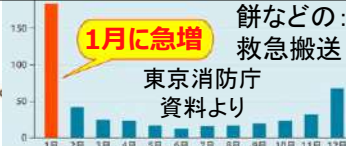
母のことでこんな事を思いなが
ら、近頃は出掛けることが減っ
てきたので、今年はAIやロボット
など最先端技術による親孝行を
してみようと、「話し相手」になる
会話ロボットのプレゼントを考
えています。ひょっとすると母に
とってロボットが神様になる日
が来るかもしれない…。



日頃より格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
本年も皆さまにとってお健やかで幸多き年でありませ
ぬよう心よりお祈り申し上げます。また昨年同様に今年
も、お引き立て賜れますようお願い申し上げます。

代表取締役 森田 裕一

お餅に
ご注意
下さい



今月のエッセイ
2022年1月

温泉での親子
浜根 美紀

コロナ禍の唯一の楽しみは、毎
日曜日夕刻に行く銭湯である。
夫の運転で二十分、露天風呂にサ
ウナもある大衆温泉だ。
コロナで客は少ないが、
対策と管理は徹底して
いる。

ところで、いつも同じ時間に、
女性の二人連れを見かける。腰の
曲がった小
柄な老婦人
と中肉中背
の女性。年
齢は九十多
と七十代だ
ろうか、顔
立ちが似て
いるから親
子だろう。
老婦人は



耳が遠いのか、二人が交わす言葉
は少ない。だが手を取りあってゆ
っくり歩く動作から、慈しみある
愛情が伺える。
浴槽に浸ってから、露天風呂、
ミストサウナ、最後に洗面台で体
と髪を洗う。いつも同じ行動だ。

彼女たちを見つけると、
つい見入ってしまう私
がいる。
うらやましいのだ。あんなふう
に、母と連れだって温泉通いがで
きたなら、どんなに幸せだった
らう。
九十歳のとき、母は老人ホーム
に入居した。気丈な性格で、自ら
選んだ選択だった。週に一回はホ
ームを訪ねていたが、忙しさに
まけていた私は、外に連れだそう
などとは考えもしなかった。足は
萎えていたけれど、「温泉に行こ
うか」と誘ったら「いいわね」と
答えてくれたかもしれない。そし
てあの娘さんのように私は、母の
背中を、白髪を、洗ってあげられ
たかもしれない。
先日、パウダールームでも二人
を見かけた。凜とした老婦人の横
顔が、母にそっくりなことに気が
ついた。娘さんにドライヤーで髪
を乾かしてもらい、
花柄のワンピース
を着せてもらった
彼女は、かわいい
童女ようだった。

東京の「木村治美エッセイストグループ」
様の協力を得て、掲載しております。

